

令和6年度

全国学力・学習状況調査

結果と分析について

藤沢市教育委員会



1 調査の概要と目的

令和6年4月18日（木）、令和6年度全国学力・学習状況調査が、全国の小学校6年生と中学校3年生を対象に実施されました。この調査は、これまでの教育活動や教育施策の成果と課題等を把握・検証し、今後の教育活動に生かすことを目的としています。

なお、本調査で測定できるのは学力の特定の一部であること、学校における教育活動の一側面であることが、国の調査実施要領で示されています。

2 実施状況

(1) 調査内容

ア 児童生徒に対する調査

- ・教科に関する調査（小学校：国語及び算数、中学校：国語、数学）
- ・生活習慣や学習環境等に関する質問調査（学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査）

イ 学校に対する質問調査

- ・学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問調査

(2) 実施校数 小学校 35校 中学校 19校

(3) 実施人数（単位：人）

	国語	算数・数学	質問調査
小学校6年生	3,676	3,676	3,644
中学校3年生	3,237	3,239	3,274

3 平均正答率一覧表

(1) 国語平均正答率（単位：％）

	小学校	中学校
全国（公立）	68	58
神奈川県（公立）	67	59
藤沢市（公立）	66	60

(2) 算数・数学平均正答率（単位：％）

	小学校（算数）	中学校（数学）
全国（公立）	63	53
神奈川県（公立）	64	54
藤沢市（公立）	64	56

※平均正答率は、平均正答数を設問数で割った値の百分率（概数）である。

※全国の平均正答率は、国から提供されたデータの小数点第一位を四捨五入した数値である。

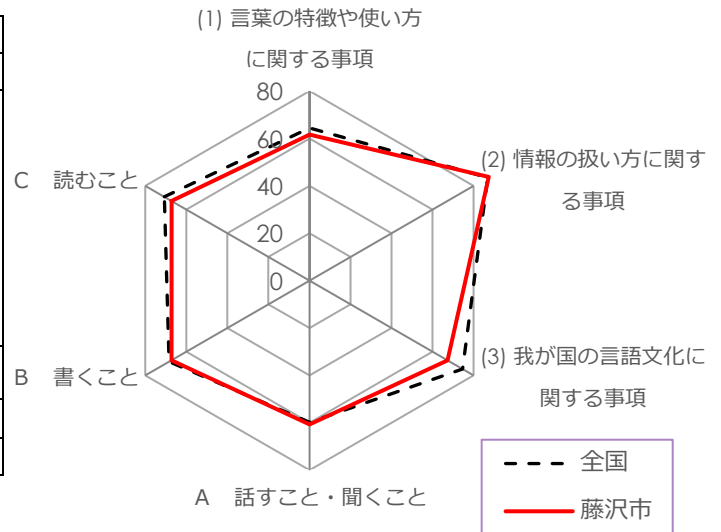
※国立教育政策研究所の令和6年度全国学力・学習状況調査報告書には、「全ての都道府県（公立学校）が全国の平均正答率の±10%の範囲内であり、大きな差はみられない。」と表記されている。

4 教科に関する調査結果の分析 <小学校 国語>

①学習指導要領の分類別平均正答率（単位：％）

分類	学習指導要領の観点					
	知識及び技能			思考力、判断力、表現力等		
	(1) 言葉の特徴や使い 方に関する事項	(2) 情報の扱い方に 関する事項	(3) 我が国の言語文 化に関する事項	A 話すこと・聞くこと	B 書くこと	C 読むこと
全国	64.4	86.9	74.6	59.8	68.4	70.7
藤沢市	61.6	87.4	67.3	60.7	67.2	67.1
設問数	4	1	1	3	2	3

※数値は正答児童生徒数を全体の児童生徒数で割った値の百分率



②設問ごとに見られた結果（○：概ね理解していると思われる点 ◇：課題とみられる点）

※本市の正答率、無回答率、全国の平均正答率との差に着目して取り上げています。

- 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことは比較的できている <(2)情報の扱い方に関する事項>
- ◇人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることに課題がある <C読むこと>

③質問調査より

(単位：％)

質問項目	藤沢市	全国
学習に対する興味関心や授業の理解度等		
国語の勉強は好きですか	59.9	62.0
国語の授業の内容はよく分かりますか	86.1	86.3
国語の学習で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	92.5	93.2
国語の授業で、物語を読むときに、登場人物の性格や特徴、物語全体を具体的にイメージし、どのような表現で描かれているのかに着目していますか	85.0	84.4

④課題に対する指導改善の手立て（参考：文部科学省 国立教育政策研究所「令和6年度全国学力・学習状況調査報告書」【速報版】）

<読むこと> 人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりする

改善に向けては、それぞれの心に残ったところとその理由を交流する場面を設定し、友達との着目の違いを比べることを通して、児童自身が「人物像」や「物語の全体像」、「表現の効果」などの観点で読んだのかを明確にしていけるよう指導すると効果的です。

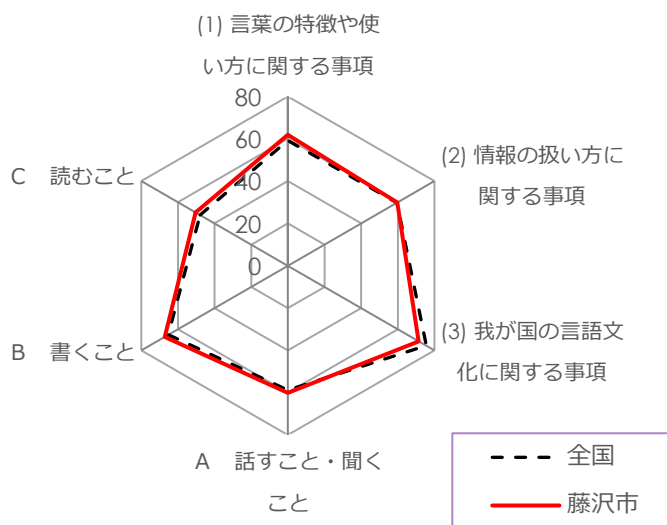
質問調査においては、物語全体を具体的にイメージしながら読んでいると捉えている児童が多いことから、物語の全体像をつかむことができても、根拠となる叙述を明確にすることが難しいと考えられます。「～のところから」など、根拠を表す語句を例示する等の手立ても効果的です。

4 教科に関する調査結果の分析 <中学校 国語>

①学習指導要領の分類別平均正答率（単位：％）

分類	学習指導要領の観点					
	知識及び技能			思考力、判断力、表現力等		
	(1) 言葉の特徴や使い 方に関する事項	(2) 情報の扱い方に 関する事項	(3) 我が国の言語文 化に関する事項	A 話すこと・聞くこと	B 書くこと	C 読むこと
全国	59.2	59.6	75.6	58.8	65.3	47.9
藤沢市	61.9	59.8	71.4	60.1	67.2	50.4
設問数	3	2	1	3	2	4

※数値は正答児童生徒数を全体の児童生徒数で割った値の百分率



②設問ごとに見られた結果（○：概ね理解していると思われる点 ◇：課題とみられる点）

※本市の正答率、無回答率、全国の平均正答率との差に着目して取り上げています。

○目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることは比較的できている <B書くこと>

◇文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈することに課題がある <C読むこと>

③質問調査より

（単位：％）

質問項目	藤沢市	全国
学習に対する 興味関心や授 業の理解度等		
国語の勉強は好きですか	65.8	64.3
国語の授業の内容は分かりますか	85.0	82.7
国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ と思いますか	89.3	90.6
国語の授業で、説明的な文章を読み、目的に応じて必要な情報に 着目して要約し、内容を解釈していますか	83.9	82.0

④課題に対する指導改善の手立て（参考：文部科学省 国立教育政策研究所「令和6年度全国学力・学習状況調査報告書」【速報版】）

<読むこと> 文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈することができかどうかをみる

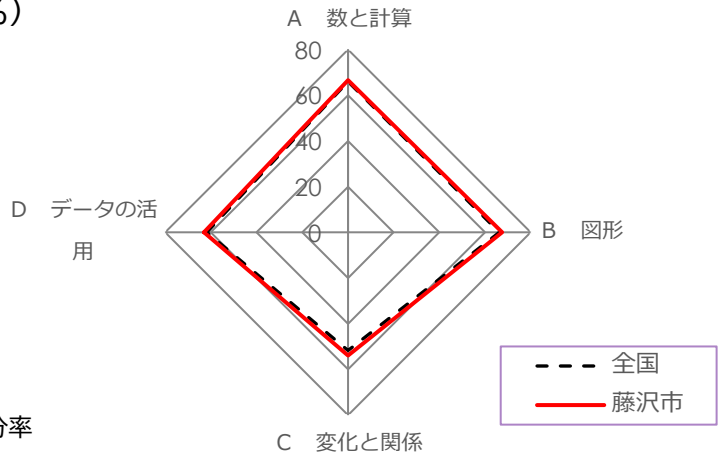
改善に向けては、図表や写真などを含む説明的な文章を読む際に、示されている図表などが、文章のどの部分と関連しているのかを確認するなどして、書き手の伝えたい内容をより正確に読み取ること、また、図表などを示すことで文章にどのような効果が生まれているのかを考えることが大切です。

質問調査からは、「説明的な文章について、目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈している」と捉えている生徒が多いことから、生徒の取組を価値づけしながら、国語科として身につけさせたい力を、より一層意識して指導を行うことも大切です。

4 教科に関する調査結果の分析 <小学校 算数>

①学習指導要領の分類別平均正答率（単位：％）

分類	学習指導要領の領域			
	A 数と式	B 図形	C 変化と関係	D データの活用
全国	66.0	66.3	51.7	61.8
藤沢市	66.6	67.5	53.9	63.0
設問数	6	4	3	4



※数値は正答児童生徒数を全体の児童生徒数で割った値の百分率

②設問ごとに見られた結果（○：概ね理解していると思われる点 ◇：課題とみられる点）

※本市の正答率、無回答率、全国の平均正答率との差に着目して取り上げています。

○数量の関係を、記号を用いた式に表すことができるかどうかをみることは、比較的できている <A数と式>

◇道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述することに課題がある <C変化と関係>

③質問調査より

（単位：％）

質問項目	藤沢市	全国
学習に対する興味		
算数の勉強は好きですか	62.4	61.0
算数の授業の内容は分かりますか	82.5	82.1
関心や授業の理解		
算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	93.1	94.1
度等		
算数の問題が解けたとき、別の解き方を考えようとしていますか	60.5	63.6

④課題に対する指導改善の手立て（参考：文部科学省 国立教育政策研究所「令和6年度全国学力・学習状況調査報告書」【速報版】）

<変化と関係> 異種の二つの量の割合として捉えられる数量の関係について考察すること

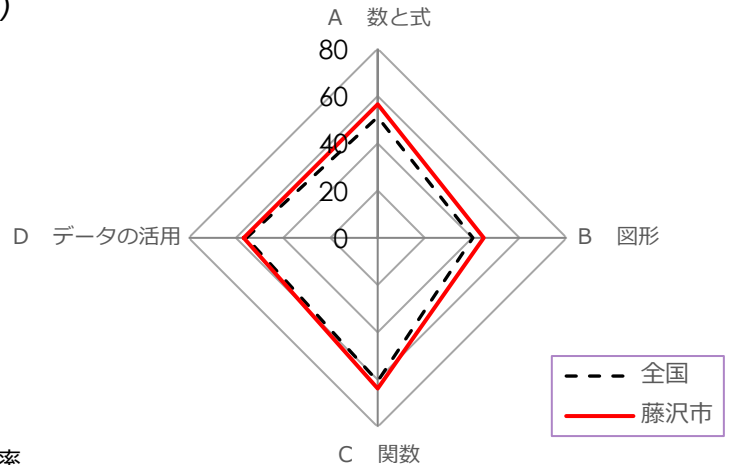
改善に向けては、速さの学習において、速さが一定の場合には道のりと時間が比例関係にあることに気付いたり、速さなど単位量当たりの大きさが平均の考えなどを前提としていることに気付いたりすることができるようにすることが大切です。また、道のりが等しい場合には、時間が短いほど速さが速いということに気付くことができるようにすることも大切です。

質問調査においては、「算数の問題が解けたとき、別の解き方を考えようとしていますか」という質問に対して、肯定的に答えた児童が国と比べて少なかったです。学習をしていく中で、問題の解決過程や結果の振り返りをしたり、新たな問いや推測などが出てくるよう促したりすることが効果的です。

4 教科に関する調査結果の分析 <中学校 数学>

①学習指導要領の分類別平均正答率（単位：％）

分類	学習指導要領の領域			
	A 数と式	B 図形	C 関数	D データの活用
全国	51.1	40.3	60.7	55.5
藤沢市	56.5	44.9	63.8	56.7
設問数	5	3	4	4



※数値は正答児童生徒数を全体の児童生徒数で割った値の百分率

②設問ごとに見られた結果（○：概ね理解していると思われる点 ◇：課題とみられる点）

※本市の正答率、無回答率、全国の平均正答率との差に着目して取り上げています。

- 問題場面における考察の対象を明確に捉え、正の数と負の数の加法の計算は比較的できている <A数と式>
- ◇複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題がある <Dデータの活用>

③質問調査より

(単位：％)

質問項目	藤沢市	全国
学習に対する興味		
数学の勉強は好きですか	57.5	57.2
数学の授業の内容はよく分かりますか	77.1	75.7
関心や授業の理解度等		
数学の学習で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	74.2	78.5
数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか	53.6	57.2

④課題に対する指導改善の手立て（参考：文部科学省 国立教育政策研究所「令和6年度全国学力・学習状況調査報告書」【速報版】）

<データの活用> 複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること

改善に向けては、箱ひげ図を比較し検討する場面を設定したり、数学的な表現を用いて説明する場面を効果的に取り入れたりするなどの工夫が考えられます。その際、判断の理由を箱の位置や四分位数などを根拠として説明できるようにすることが必要です。また、日常生活を絡めながら、活用できる知識・技能を習得できるようにすることが重要であるとともに、データの活用については、小学校段階からデータを言葉と数を使って表現する力を身に付けられるような指導が効果的であると考えられます。

質問調査からは数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないかを考える機会が少ないと読み取れるため、授業の中で数学が日常生活や社会生活において、また、他教科の学習やその後の人生において必要不可欠なものであることに気づかせることが大切です。

5 児童生徒質問調査に関する調査結果（学習に関連する項目を抜粋）

※時間数や頻度等を問う設問以外は「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と回答した比率を合計した数値

（単位：％）

	質問項目		小学校		中学校	
			藤沢市	全国	藤沢市	全国
基本的生 活習慣等	朝食を毎日食べている		95.5	93.7	92.6	91.2
	就寝時刻が毎日ほぼ同じである		84.0	82.9	77.5	80.7
	起床時刻が毎日ほぼ同じである		91.5	91.6	91.0	92.5
	一日どのくらいテレビゲームをするか （携帯電話やスマートフォンを使ったゲ ーム等を含む）	4時間以上	15.1	17.7	15.9	16.6
		2～4時間	28.4	31.5	29.8	32.3
		全くしない	10.0	8.0	13.8	11.2
	一日どのくらい携帯電話やスマートフォ ンで SNS や動画視聴をするか	4時間以上	10.4	11.9	19.3	18.2
2～4時間		19.2	21.9	38.7	37.7	
持っていない		21.4	21.1	1.5	3.4	
規範意 識・自己 有用感等	自分には、よいところがあると思う		85.6	84.1	81.6	83.3
	先生は良いところを認めてくれていると思う		87.7	89.9	87.3	90.4
	人が困っているときはすすんで助けている		91.6	92.7	88.1	90.1
	人の役に立つ人間になりたいと思う		95.6	95.9	93.7	95.2
学習習慣 学習環境等	分からないことや知りたいことがあった時に、自分で学 び方を考え工夫できている		82.1	80.7	75.0	78.6
	平日に学校以外で 一日どのくらいの 時間勉強をするか	2時間以上	33.8	23.5	46.2	31.7
		1～2時間	22.2	31.1	24.6	32.6
		30分～1時間	21.4	27.0	12.8	18.4
		30分より少ないか全くしない	22.5	18.3	16.0	17.0
地域社会	地域や社会をよくするため何かしてみたと思う		83.5	83.5	70.3	76.1
ICTを 活用した 学習状況	授業でコンピュータなどの ICT 機器をど の程度使用したか	ほぼ毎日	15.7	25.3	25.9	31.0
		週3回以上	34.5	34.2	36.8	33.4
		週1回以上	33.7	26.0	28.8	24.6
		月1回以上	12.0	10.3	6.1	7.8
	学習の中での ICT 機器の活用につい て、次のことはど のくらい当てはま るか	分からないことがあった時に、すぐ 調べることができる	90.9	92.1	93.9	93.9
自分の考えや意見をわかりやすく伝 えることができる		73.7	79.2	73.0	77.7	
友達と協力しながら学習を進めるこ とができる		82.8	87.1	79.5	85.2	
主体的・ 対話的で 深い学び の視点で の授業改 善	自分の考えを発表する機会では、資料や文章、話の組立 てなどを工夫して発表していた		73.9	67.6	78.5	64.8
	課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んで いた		83.5	81.9	81.2	80.3
	級友との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深め たり、新たな考え方に気づいたりすることができた		85.8	86.3	85.0	86.1
総合的な 学習の時 間・学級 活動・道 徳	総合的な学習の時間では、自分で課題を立て、調べたこと を発表するなどの学習活動に取り組んでいる		74.7	81.3	81.5	82.2
	学級活動では、学級をよりよくするために、話し合い、 互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている		76.3	84.2	84.8	86.3
	道徳では、自分の考えを深めたり学級やグループで話し 合ったりする活動に取り組んでいる		85.8	88.2	92.7	91.7

6 児童生徒質問調査結果の特徴と考察

※時間数を問う設問や平均正答率以外は「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と回答した比率を合計した数値（単位：%）
 参考：文部科学省 国立教育政策研究所「令和6年度全国学力・学習状況調査報告書」【速報版】

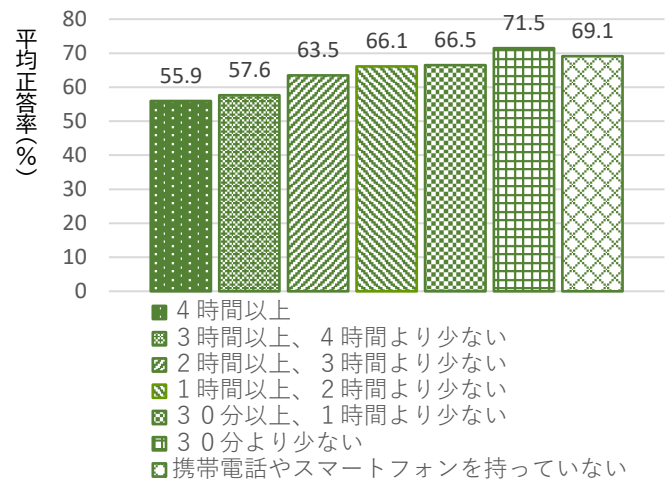
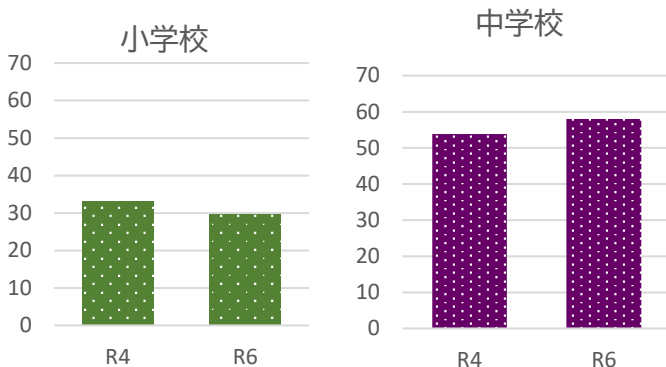
基本的な生活習慣等について

<ふじさわビジョン：自己の知>

質問「平日一日当たりどのくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか」（2時間以上の割合）

※令和5年度は調査を行っていない項目

※小学校国語の平均正答率と SNS や動画視聴の時間との関係



特徴

- ・令和4年度と比較すると、中学生の使用時間に微増傾向が見られる。
- ・SNS や動画視聴をする時間が少ないほど正答率が高い傾向が見られる。このことは、小学校算数及び、中学校の国語・数学でも同様の傾向が見られる。

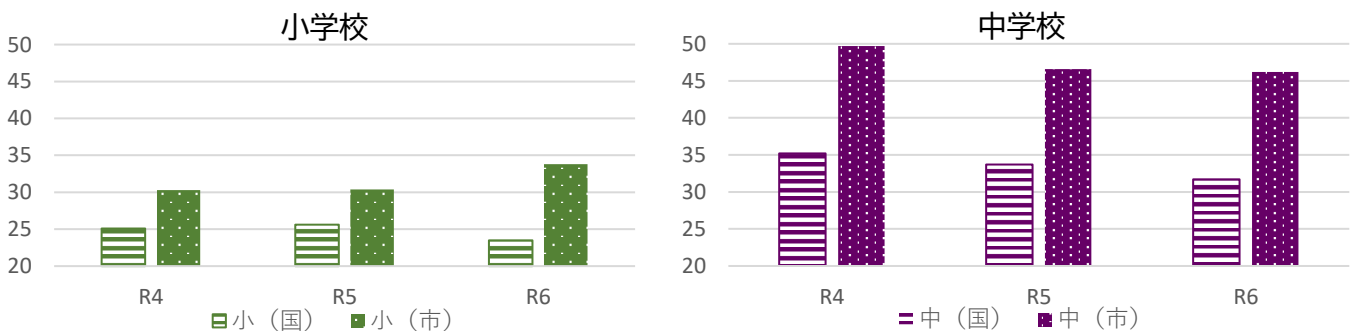
考察

- ・SNS や動画視聴をする時間の長さは児童生徒の生活習慣とも関連し、就寝時間や勉強時間、正答率等にも影響を及ぼしている可能性が考えられる。

学習習慣について

<ふじさわビジョン：自己の知>

質問「平日に、学校以外で一日当たりどのくらいの時間、勉強をしますか」（2時間以上の割合）



特徴

- ・小学校では、平日2時間以上勉強していると回答した割合は、過去3年間の中で、令和6年度が最も高い。中学校では、過去3年間で比較すると、減少傾向にある。
- ・小中学校で比較すると、中学校の割合が高い。

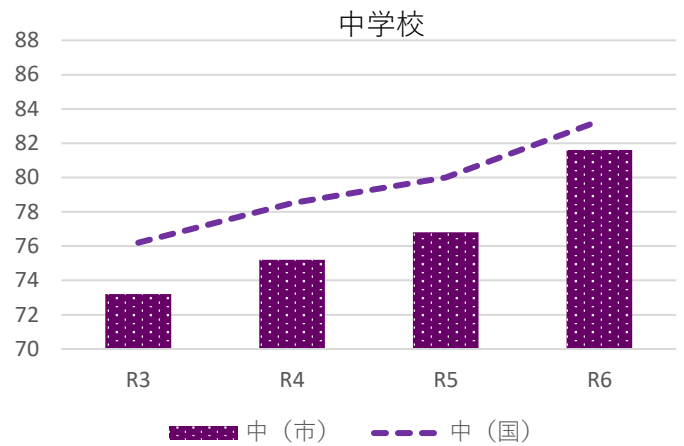
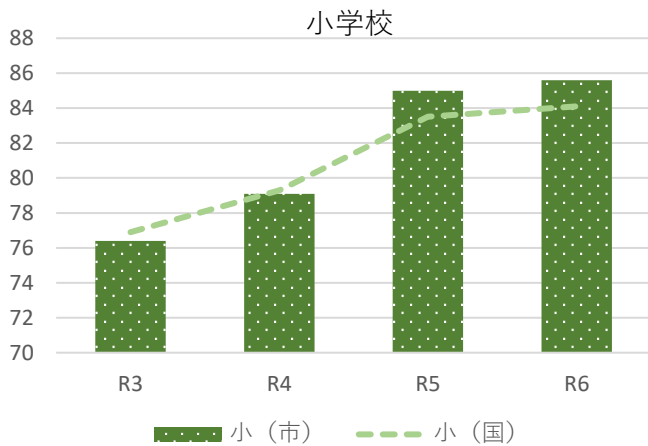
考察

- ・中学校の平日の学習習慣については、調査対象が中学3年生ということもあり、学習への意識が高まっていると考えられる。

自己有用感について

<ふじさわビジョン：自己の知>

質問「自分には、よいところがあると思いますか」



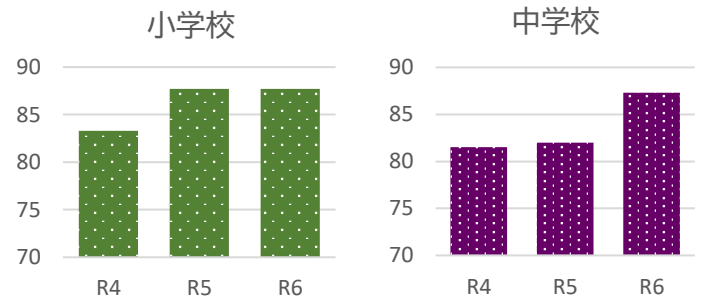
特徴

- ・小学校の方が中学校より割合が高い。
- ・小中学校ともに、増加傾向にある。
- ・現在の中学校3年生は小学校6年生の時より上昇している。

考察

- ・子どもの自己肯定感については教員及び大人の声かけや友達同士のかかわりも大きく影響しているものと思われる。

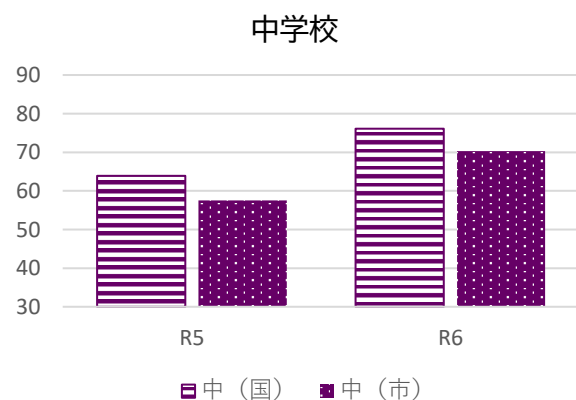
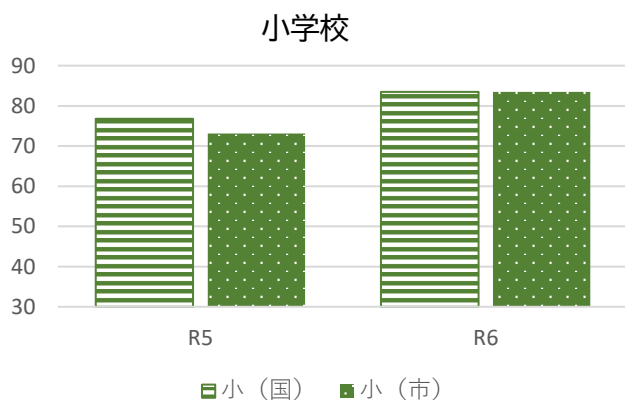
※「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」（「あてはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合）



地域社会について

<ふじさわビジョン：かかわりの知>

質問「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」



特徴

- ・小中学校とも、令和6年度は、令和5年度とくらべて割合が高くなっている。
- ・中学校は、令和5・6年ともに、全国と比べて割合が低い。

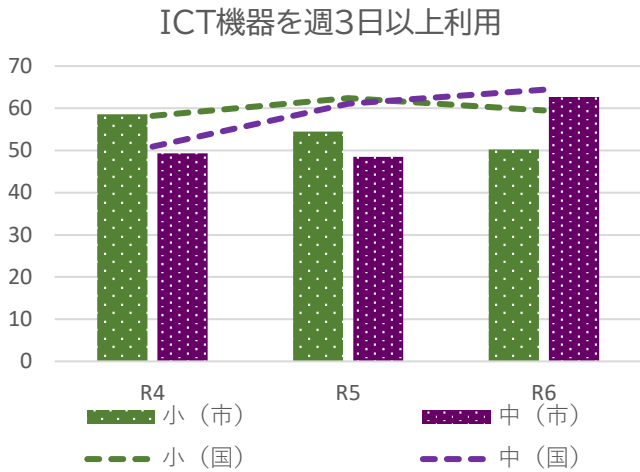
考察

- ・現行の学習指導要領で求められている学びを踏まえ、各学校で地域社会を意識した取組が増えてきていることが考えられる。

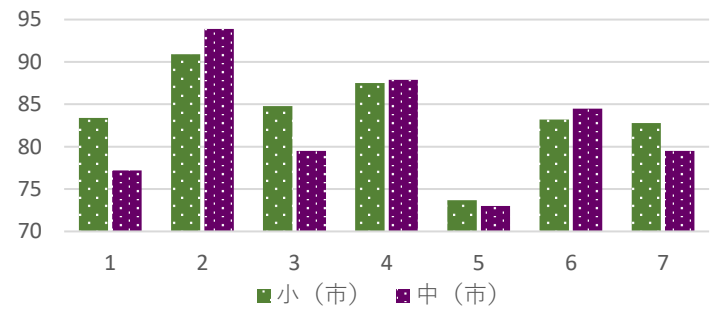
ICT の活用について

質問 「授業でコンピュータなどのICT機器をどの程度使用したか」の質問に、「週3回以上」と回答した児童生徒の割合（左のグラフ）

質問 「5年生まで（中学1、2年生のとき）の学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどのくらい当てはまりますか。」の質問に回答した児童生徒の割合（右のグラフ）



- 1 自分のペースで理解しながら学習をすすめることができる
- 2 分からないことがあった時に、すぐに調べることができる
- 3 楽しみながら学習を進めることができる
- 4 画像や動画、音声を活用することで、学習内容がよく分かる
- 5 自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる
- 6 友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる
- 7 友達と協力しながら学習を進めることができる

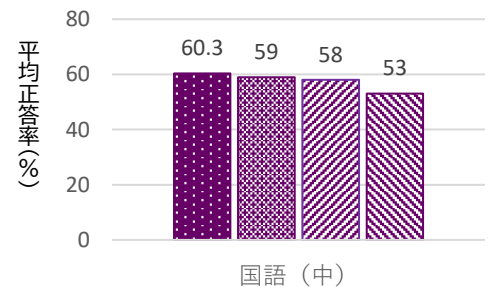
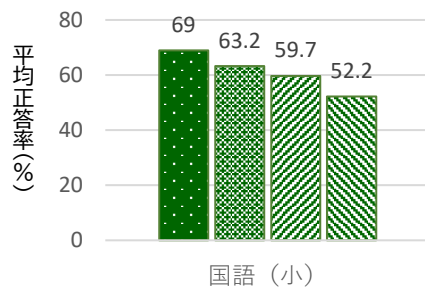


- 特徴**
- ・「授業でコンピュータなどのICT機器を週3回以上使用する」と回答した児童生徒の割合は、小学校では減っていて中学校では増えている。
 - ・ICTの活用については、「分からないことがあった時にすぐに調べることができる」に肯定的な回答をした児童生徒の割合が、小学校、中学校ともに最も高い。
 - ・「自分の考えや意見をわかりやすく伝えることができる」に肯定的な回答をした児童生徒の割合が最も低い。

- 考察**
- ・児童生徒にとって、PCやタブレットは、調べるための道具として、日常的なものになっていると考えられる。

※ 国語(小・中学校)の平均正答率と、「ICT機器やタブレットは分からないことがあった時に、すぐ調べることができる」の回答との関係

- 特徴**
- ・「分からないことがあったときにすぐ調べることができる」の回答と国語の正答率との関係を見ると、肯定的な回答であればあるほど正答率が高い。



- 考察**
- ・学習の理解や定着が見られる児童生徒ほど、分からないことがあった時にすぐに調べるなど、ICTを活用することの利点を感じている。

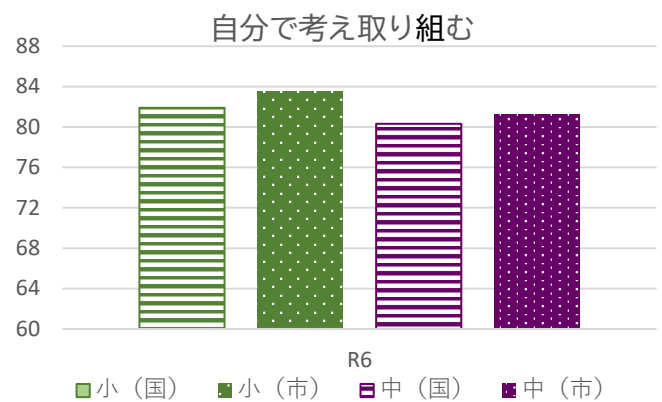
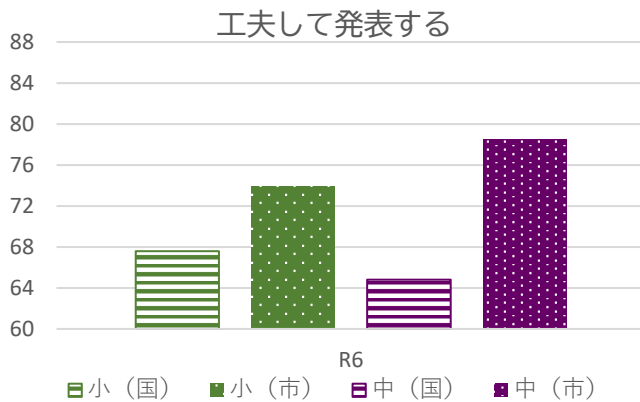
主体的・対話的で深い学びについて

<ふじさわビジョン「かかわりの知」>

質問 <5年生（中学校1、2年生）までに受けた授業に関する質問>

「自分の考えを発表する機会では、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた」（左）

「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んだ」（右）



特徴

- ・小中学校とも、工夫して発表したと回答した児童生徒の割合が全国に比べて高い。
- ・小中学校とも、自分で考え取り組む児童生徒の割合が80%をこえている。

考察

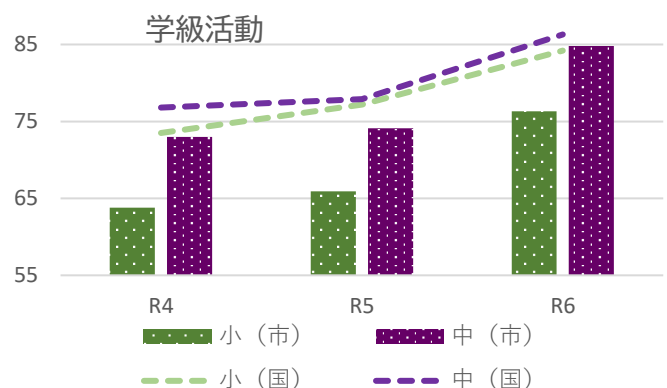
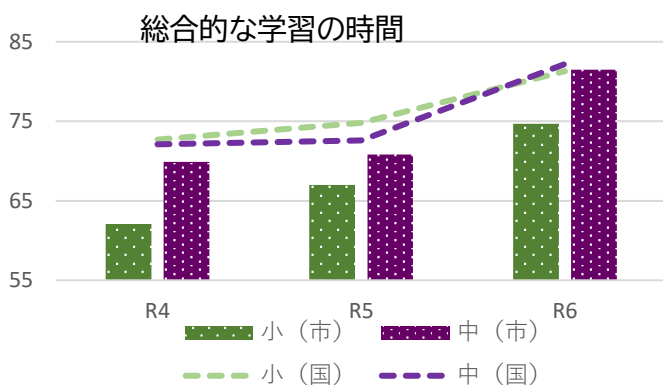
- ・授業の中で、児童生徒が発表したり、課題解決に向けて自分で考え取り組んだりする場面が多く設けられていることが考えられる。

総合的な学習・学級活動について

<ふじさわビジョン
「状況の知」「かかわりの知」>

質問「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいた」（左）

質問「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている」（右）



特徴

- ・総合的な学習の時間、学級活動に関する質問、いずれにおいても肯定的に回答している児童生徒の割合は、年々増加している。
- ・いずれも全国値に比べると、若干低い傾向がある。

考察

- ・各学校において現行の学習指導要領で求められる学びを踏まえ、対話的な学習活動や児童生徒が考えを発表する場面を意識した取組がされるようになってきていると考えられる。
- ・それぞれの授業での取組は進んでいるが、学校全体の取組には至っていないことも考えられる。

7 今後へ向けて

学校・教育委員会の取組

学校教育ふじさわビジョンの理念に基づき、子どもたちの3つの知を育み、魅力ある学校づくりをすすめます。

(1) 「主体的・対話的で深い学び」が展開されるような授業の実践へ向けた取組を進めます。

- ・校内研究や学校訪問などを通して、教員の授業力、学級経営力の向上に努めます。
- ・主体的、対話的な学習活動を通して、読解力、表現力、思考力等の育成に努めます。

(2) 自己肯定感・自己有用感が高まる取組を進めます。

- ・友達や地域の方など様々な人とかかわる活動を通して子ども達の自己肯定感、自己有用感が高まる取組を推進します。

(3) 一人一台端末やICT機器がより効果的な教育活動の一助となるよう、有効な活用を促進します。

- ・児童生徒が安全に、また安心して学習用端末が活用できるような環境整備に努めます。
- ・ICT機器を授業等において、効果的に活用できるような取組を推進します。

保護者の皆さまへ

(1) 基本的な生活習慣を身につけましょう。

- ・睡眠、朝食の摂取など基本的な生活習慣を継続して身につけていくが大切です。
- ・家庭でのICT機器の使用のルール作りなど、効果的な活用をすすめる取組が必要です。
- ・地域の力になりたいと思っている子ども達が増加しています。子ども達は地域で育つという考え方からも行事への参加を促すなど地域と顔が見える関係を構築していきましょう。

(2) 自己肯定感、自己有用感を高めるはたらきかけを大人からもしていきましょう。

- ・子ども達へのちょっとした声かけが、大きな力になることがあります。家庭、地域からも様々な場面を通して自己肯定感を高めるはたらきかけをしていきましょう。